



# 伊倉っ子 だより

【学校教育目標】  
豊かな心と確かな学力を身に付け、  
心身ともにたくましく生きる  
児童の育成

伊倉小学校だより  
第18号  
令和8年2月25日  
文責：校長 須藤 隆

## 命・家族について考える～PTA 教育講演会から～

先週のPTA教育講演会では、宮津航一さんを講師にお招きし、「こうのとりのゆりかごから始まる第2の人生」と題してご講演いただきました。当日は多くの保護者の皆様に加え、地域の方々にもご参加いただきました。

宮津さんは、慈恵病院が運用している「こうのとりのゆりかご」に、運用初日に預けられました。当時3歳で、その後は里親家庭で育てられました。現在は熊本県立大学に在学し、学業に励んでおられます。

講演では、生まれた頃の写真が1枚もないことや、小学生の頃、乳児期の自分を紹介する際に里親家族の写真を用いたことなど、ご自身の経験を率直に語っていただきました。また、高校3年生のときに、自らが「こうのとりのゆりかご」出身であることを初めて公表し、自身の歩みや思いを社会に伝える活動を始めた経緯についてもお話しいただきました。

「今ある命は決して当たり前ではないこと」「家族とは血縁だけでなく、どれだけ味方であり続けられるかが大切であること」と話され、自らが「ゆりかご」に預けられた経験を前向きに受け止め、子供たちが自分の出自を誇りに思える社会の実現を目指したいと力強く語られました。

1時間にわたる講演でしたが、時間の経過を感じさせない充実した内容で、子供たちも真剣な表情で聞き入っていました。参加者一人ひとりにとって、命の尊さや家族について改めて考える貴重な機会となりました。



講演をする宮津さんの様子

## 校長室から ～熊本県学力・学習状況調査の結果Ⅱから～

先日のPTA総会には、多数の保護者の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございました。校長あいさつでは、前回の学校だよりでもお知らせしました本校の課題の一つである「インターネットやゲーム、動画等の使用時間が長いこと」についてお話ししました。

今回は、同じ調査結果の中から、特に**良好であった項目**を2点ご紹介します。

1点目は、『**家族・友達・先生の支え**』に関する項目が高いことです。「家の人とはあなたにとってかけがえのない存在だと思いますか」「つらかったときやくやしかったときに、友達から優しい言葉をかけてもらったことがありますか」「先生はクラスみんなを褒めたり励ましたりしてくれますか」といった質問に対する肯定的な回答が多く、子供たちが日常の中で温かい支えを実感していることがうかがえました。

2点目は、『**学級の絆**』に関する項目が高い数値を示していることです。「今のクラスは好きですか」「クラス全員一人一人のよいところを、言葉にして言うことができますか」といった質問への回答から、学級内の良好な人間関係が築かれていることが分かりました。

これら2点は相互に関連していると考えられます。家族・友達・先生の支えがあるからこそ、子供たちは安心して学級生活を送ることができ、その結果として学級の絆が深まっていると言えるでしょう。学年差や個人差はあるものの、全体としてはどの学年も同様の傾向が見られました。

今後も“伊倉小のよさ”を大切にしながら、子供たちが安心して成長できる学校づくりに努めてまいります。



全児童参加の一斉遊びでしっぽ取りゲームをしている様子

